

横浜都市発展記念館 令和7年度**特別展**×埋蔵文化財センター 令和7年度「**横浜の遺跡展**」

戦争の記憶

横浜と軍隊の120年

2026(令和8).1.24(土)—4.12(日)

|開館時間| 午前9時30分～午後5時(券売は午後4時30分まで)

|休館日| 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日は休館)

|会場| 横浜都市発展記念館

〈第1会場〉1F ギャラリー、〈第2会場〉3F 企画展示室、〈第3会場〉4F 常設展示室ミニ展示コーナー

|観覧料| 一般 800円、横浜市内在住65歳以上・小中学生 400円

この料金が当館常設展および横浜ユーラシア文化館もご覧いただけます。

「身体障害者手帳」などをお持ちの方は無料です。入館の際に手帳をご提示ください。

毎週土曜日は小中学生・高校生・大学生は無料です。



横浜都市発展記念館
Museum of Yokohama Urban History

〒231-0021 横浜市中区日本大通12 Tel. 045-663-2424



「戦後80年」、その先へ

|主催| (公財)横浜市ふるさと歴史財団(横浜都市発展記念館・埋蔵文化財センター) |共催| 横浜市教育委員会/横浜開港資料館 |後援| 朝日新聞横浜総局/神奈川新聞社/産経新聞社横浜総局/東京新聞横浜支局/毎日新聞社横浜支局/読売新聞横浜支局/NHK横浜放送局/tvk/FMヨコハマ/学校法人國學院大學

1945年の第2次世界大戦の終結から80年を迎えました。この間、日本は戦争のない時代をすごすことができました。80年間という時間は、1868年の戊辰戦争から西南戦争、日清戦争、日露戦争、第1次世界大戦をへて、満洲事変、日中戦争、そして第2次世界大戦の終結までの77年間をこえる時間でもあります。一方、世代交代によって戦争を体験した人びとは少なくなり、その記憶は薄まりつつあります。かつて体験者から戦争の話を聞くことができましたが、すでに困難な状況になっています。そうしたなか、地域に目をむけると、神社や寺院、公園、さらに景観には、近現代の戦争を語る“モノ”、痕跡などが数多く残っています。これらは地域に刻まれた「戦争の記憶」です。

本展示では、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターの発掘成果と、これまでの横浜開港資料館および横浜都市発展記念館、横浜市史資料室の研究成果を踏まえつつ、1853年の黒船来航から1975年のベトナム戦争終結までのおよそ120年間を対象に、地域に残る遺跡や景観、モニュメントなどから横浜と軍隊との関係、さらに過去の戦争の記憶を追いかけていきます。

本展示が都市横浜の近現代史を考える一助になるとともに、地域に残された歴史の痕跡、「戦争の記憶」を見直す契機になれば幸いです。

展示構成

●第1会場 横浜の軍事施設Ⅰ（海軍編）

●第2会場 横浜と軍隊の120年

- 序章 「軍都」と「軍港都市」の狭間で ー2つの軍事拠点と横浜ー
- | | |
|-------------------|----------------|
| 第1章 幕末・明治時代の横浜と軍隊 | 第2章 総力戦の時代へ |
| 第3章 関東大震災と満洲事変 | 第4章 第2次世界大戦の勃発 |
| 第5章 敗戦と占領軍の駐留 | 第6章 冷戦構造下の横浜 |
- 終章 接收解除と跡地利用

●第3会場 横浜の軍事施設Ⅱ（陸軍編）

※第1会場・第3会場：埋蔵文化財センター担当、第2会場：横浜都市発展記念館担当



3



4



5

- 1 横浜港に停泊する戦艦「比叡」とイギリス巡洋艦「サフォーク」 1934(昭和9)年 『横浜グラフィ』 横浜都市発展記念館所蔵
- 2 歩兵部隊の軍事演習(部分) 明治期 『大日本帝国軍人画譜』 横浜開港資料館所蔵
- 3 出兵の拠点となった西南戦争時の横浜港 1877年4月14日 『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』 横浜開港資料館所蔵
- 4 日露戦争記念の砲弾狍犬 南区・お三の宮日枝神社
- 5 舞岡熊之堂遺跡・照空中隊本部の発掘現場 埋蔵文化財センター

横浜都市発展記念館 Museum of Yokohama Urban History

〒231-0021 横浜市中区日本大通12 Tel. 045-663-2424



アクセス

- みなとみらい線日本大通り駅(3番出口)0分
- 横浜市営地下鉄ブルーライン関内駅(1番出口)から徒歩約10分
- JR京浜東北・根岸線関内駅(南口)から徒歩約10分
- 横浜市営バス「日本大通り駅県庁前」から徒歩1分



1



2

展示解説（申込不要）

展示担当者が見どころを解説します。

日時：2026年1月25日(日)、2月8日(日)、3月15日(日)、3月20日(金・祝)、4月5日(日)、4月12日(日) 13時30分～14時15分

会場：横浜都市発展記念館 企画展示室

参加費：特別展観覧料が必要です。

関連講座「開港都市・横浜と2つの軍事拠点」(全2回・要申込)

日時：2026年2月21日(土)・3月21日(土) 13時30分～15時

会場：横浜開港資料館講堂

第1回「巨大軍都・東京と横浜」

第2回「軍港都市・横須賀と横浜」

講師：吉田律人(横浜都市発展記念館主任調査研究員)

定員：各回先着50名 参加費：各回1,000円

申込方法：

横浜都市発展記念館イベント
申し込みページよりお申し込み
ください。(右記QRコード)



第1回



第2回

記念シンポジウム「地域に眠る文化資源の発掘と活用

ー横浜地域の“戦争の記憶”を中心にー」(申込不要)

日時：2026年3月7日(土) 13時30分～17時

主催：公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団

共催：國學院大學研究開発推進機構

会場：國學院大學横浜たまプラーザキャンパス1号館1503教室(講堂)

定員：200名 参加費：無料

チラシ表面資料

- 本町通りを行進するアメリカ軍の車両 1953(昭和28)年 奥村泰宏撮影 栗林阿裕子氏寄贈 横浜都市発展記念館所蔵
- 陸軍特別大演習両軍位置要図 1921(大正10)年 防衛研究所戦史研究センター史料室所蔵